

平成20年度 地方の元気再生事業 事業実施調査

(1) 取組名	過疎地域を公共交通でひとつにするプロジェクト			
(2) 実施団体名	珠洲市地域公共交通活性化協議会	(3) 対象地域	珠洲市全域	
(4) 代表団体名		(5) 推薦団体名	珠洲市	
(6)実施した取組の内容	取組①	バス・ボランティア・サポートプログラム(B-VSP) 試行実験		
	実施主体	珠洲市区長会連合会(協力団体:珠洲市・飯田高等学校、外部協力団体:珠洲市PTA連合会)		
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果
		(目的)路線バスを地域の共有財産としてとらえ、市民のバス利用促進活動を行うバス・ボランティア団体の結成を促す。 (内容)協議会と協定を締結し、活動に必要な経費を協議会より支給する。		・12/7 協議会とボランティア団体とが協定を正式調印。(一部活動は事前実施) ・ボランティア活動は、除雪清掃作業、利用促進PR、民間倉庫のバス待ちスペースとしての提供と改修、バス停ベンチの製作・設置など。すべての活動は、団体からの提案に基づいて行われており、住民の主体性が発揮されている。
	取組②	市民交流バスの運行実験		
	実施主体	珠洲市教育委員会(協力団体:珠洲市・北鉄奥能登バス(株))		
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果
		(目的)バス車両内を地域住民のコミュニティセンターとしてとらえ、その活用を試行する。 (内容)ギャラリーバスとしての運行(市民の作品展を開催)		・12月(第1回)、1月(第2回)、2月(第3回予定)にわたり、路線バス内で作品を展示。 ・第1回、第2回の展示は、保育所児童の絵画を展示。 ・第3回の作品展示について、バスの車両デザインを、市内小中学校を対象に募集。518の作品応募があり、優秀作品を、路線バスで展示予定。
	取組③	まちなかへのデマンドバス運行実験		
	実施主体	珠洲市(協力団体:北鉄奥能登バス(株))		
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果
		(目的)市内のバス路線の一部をモデル路線としてとりあげ、デマンド型運行の導入可能性を検討する。 (内容)モデル路線においてデマンド型運行を試行的に実施する。		・1/5～2/28の2ヶ月間にわたり、市営バス小屋線最終往復便においてデマンド型運行ならびに一部区間の料金低減とフリー乗降の導入を実施することとした。 ・実験実施にあたっては、目標値(1日6人以上の利用者増)を沿線住民と共有し、目標が達成されない場合には、料金改定や便数の見直しを行うこととした。
	取組④	バス利用促進キャンペーン		
	実施主体	珠洲市		
	実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果
		(目的)移動手段がマイカーである市民のバスに対する関心を高める。 (内容)バスの利用促進キャッチフレーズを市民募集。キャッチフレーズを使ったPR活動を展開する。		・バス利用促進キャッチフレーズを募集した結果、市民より132作品の応募があり、審査の結果、最優秀1点、優秀5点、佳作19点を選定した。 ・最優秀および優秀の6点のキャッチフレーズを使って、ステッカーとシールを作成(市民配布用)。今後、関連事業を展開する際には、事業のテーマに即したキャッチフレーズを適宜活用していくこととしている。
	取組⑤	まちなかへのバス料金割引実験		
	実施主体	珠洲市(協力団体:珠洲商工会議所・北鉄奥能登バス(株))		
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果	
	(目的)バス事業者と市内商業事業者との連携により、バス利用者増進を図るとともに、市外への買い物客流出を食い止め市内商業の活性化を図る。 (内容)協力店で一定額以上買い物をしたお客様に、バス割引券を発行する。		・12/1～12/31に、市内協力店で1,000円以上買い物をしたお客様に対し、バス運賃の100円割引券を配布。市内商店が積極的に協力しており、今後の連携の第1歩となった。 ・バス運賃割引券は12/1～1/31の2ヶ月間にわたり利用可能とした。12/1～1/6までの速報値では、1日平均で145枚程度利用されている。	
取組⑥	ふるさと再発見バスの試行運行			
実施主体	珠洲市(協力団体:貸切バス事業者・珠洲商工会議所、外部協力団体:NPO法人能登すずなり)			
実施内容、実施結果	当初提案により予定していた計画		実際の取組内容及びその結果	
	(目的)マイカーで訪れることが多い、能登半島先端部の観光地において、公共交通による観光を可能とするツアー商品の開発をめざす。 (内容)観光ボランティア団体と連携したモニターツアーの企画立案とモニターツアーの実施による観光商品の可能性を検討する。		・11/24(第1回)、2/8(第2回)、2月下旬～3月上旬(第3回)のモニターツアーを実施予定。(第1回の市外参加者は4名) ・モニターツアーの実施により、3時間程度のコースを設定することが妥当であり、数パターンのコースを設定する予定である。コースの設定は、NPO法人能登すずなりが主体的になっており、今後の貸切バス事業者と連携した取組みの第一歩となった。	

	<p>取組⑦ バスを見直す市民フォーラムの実施</p> <p>実施主体 珠洲商工会議所(協力団体:珠洲市・珠洲市区長会連合会)</p> <p>実施内容、実施結果 当初提案により予定していた計画 (目的)公共交通を維持していくためには、利用者だけでなく、市民全体でバス利用促進を図ることの重要性を、市民全体で共有する。 (内容)市民フォーラムを実施し、今後の方向性を議論する。</p>	<p>実際の取組内容及びその結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3/8「ラポルトすず」においてフォーラムを開催予定。 ・基調講演を、市外学識者(中川大 京大教授)にいただき、バスの重要性をよびかかるとしている。 ・パネルディスカッションにおいては、B-VSP参加団体、市民代表、先進地代表(氷見市 NPO団体)をパネリストに迎える。
<p>(7)実施体制</p>	<p>平成20年度の取組実施における体制・役割分担</p>	<p>取組の実施を踏まえた反省点</p> <p>基本的に、当初の実施体制に基づいて、各取組を実施した。ただし、実施にあたって、以下のとおり新たな協力が得られたところもあった。</p> <p>① バス・ボランティア・サポートプログラム試行実験 …珠洲市区長会連合会の取組に対し、飯田高校が活動団体として参加したほか、珠洲市折戸地区の地域団体(一輪会)、柏原地区の町会団体、珠洲ローターアクトクラブの協力が得られた。飯田高校については、取組⑦市民フォーラムにおいて、パネリストとしての参加も得られた。</p> <p>② 市民交流バスの運行実験 …市内保育所及び市内小中学校からの参加が得られた。</p> <p>③ まちなかデマンドバス運行実験 …モデル路線として選定した路線の沿線住民の積極的な参加があり、取組①のバス・ボランティア・サポート団体としての参加がえられ、住民の主体的な活動による利用促進が図られ、複合的な取組へとつながった。</p> <p>⑤ まちなかへのバス料金割引実験 …割引実験に協力店として60店舗が参加した(うち大型店4店)。</p>
<p>(8)取組により得られた成果</p>	<p>○成果1→ 市民がバスへの関心を向け、バスの利用を促すことで、利用者増を図る</p> <p>H19 ①1日あたりの平均バス利用者数 平日353名、休日122名 ②バスをほとんど利用しない市民の割合 59.2%</p> <p>H20(実際に得られた成果) ①1日あたりの平均バス利用者数 平日418名、休日194名 ②バスをほとんど利用しない市民の割合 調査実施中</p> <p>○成果2→ 公共交通の活性化をめざす市民の取組を促すことにおいて、コミュニティ力の強化を図る</p> <p>H19 バスを守るボランティアサポート団体数 0団体</p> <p>H20(実際に得られた成果) バスを守るボランティアサポート団体数は当初目標を上回る4団体と協定を締結。</p> <p>○成果3→ 公共交通を活性化させることを契機として、地域の元気再生を図る</p> <p>H19 ① 珠洲市外の店舗での買い物率 14.7%(最寄り品) ② 珠洲市への観光入り込み客数 759,872人</p> <p>H20(実際に得られた成果) ① 珠洲市外の店舗での買い物率は、調査中。商店主アンケートを実施予定。 ② 珠洲市への観光入り込み客数は、調査中。</p>	<p>H20(当初予定していた目標) ①1日あたりの平均バス利用者数 平日500名、休日200名 ②バスをほとんど利用しない市民の割合 40%</p> <p>H20(当初予定していた目標) バスを守るボランティアサポート団体数 3団体</p> <p>H20(当初予定していた目標) ① 珠洲市外店舗での買い物率 10%以下 ② 珠洲市への観光入り込み客数 800,000人</p>

<p>(9) 今年度の取組成果や活動を踏まえた反省点、改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実質的な事業期間が、10月～2月の5ヶ月であったが、公共交通利用者数や買い物客数、観光入り込み客数の増加まで効果を波及させるためには、継続的な実施が必要である。取組みに対する市民への周知にもっとも時間がかかった。 ・買い物によるバス運賃の割引実験(取組⑤)は、関連事業とあわせてPR等を実施していたため、効果があらわれやすかったと思われる。 ・バスボランティア団体の活動の成果(利用者増進など)が、バス路線の維持・向上へとつなげるために、成果のあらわれた路線に対する増便を見越した運行実験などへの展開など、住民との協働によるバス路線の検討へつなげる必要がある。 ・市民交流バスは、作品展示を行うギャラリーバスの運行を行ったが、交流のためのその他の取組みの可能性を、沿線住民とともにさらに検討していく必要がある。 ・まちなかへのデマンドバス運行では、モデル路線の目標を達成した場合、継続した新システムの運行を行うが、目標が達成されなかった場合、効率化のシナリオを、沿線住民とともに検討する必要がある。 ・買い物によるバス運賃の割引を定着させるために、料金割引による利用者増分の負担軽減が図られた運行負担者(バス事業者・珠洲市)とともに、買い物客数増がみられた商業事業者との連携体制(負担の仕組み)を確立する必要がある。 ・観光ボランティア団体による能登半島先端を公共交通で周遊する観光ルートについては、能登空港を使って能登半島を訪れる(マイカーを持たない)観光客にターゲットをしばり、プロモーション活動を展開し、誘客促進を図る具体的な活動へと結びつける必要がある。また、その効果を拡大する為には広域レベル(他市町との連携)での取組が必要である。 	
<p>(10) 平成21年度以降の活動の見込み</p>	<p>当初提案に予定していた平成21年度以降の展開</p> <p>① 住民の努力をバス路線の維持・向上へとつなげるシステムの定着化</p> <p>② 市民交流バスの継続的運営</p> <p>③ モデル路線のデマンド運行の定着と拡大</p> <p>④ 商店街等とバス事業者、珠洲市の連携によるバス料金割引の本格導入</p> <p>⑤ 着地型観光商品としての提供</p> <p>当初提案になし</p>	<p>今年度の取組状況を踏まえた平成21年度以降の活動の見込みと活用を希望する支援制度</p> <p>・住民のボランティア活動によって成果があらわれた路線に対し、路線バスの利便性を向上させ、さらなる利用増進を図るため、住民ボランティア団体と協働したバス路線増便実験を行う。 [希望する制度 上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(100万円)]</p> <p>・バス車両のさらなる活用を図るための実験を実施する。(車両内無人直売所の設置、バス車両イベントの実施など) [希望する制度 無し]</p> <p>・モデル路線沿線地域の地域コミュニティ力を高めるためには、モデル路線の維持をめざした利用促進活動および、さらなる効率化のシナリオづくりを実施する必要がある。効率化のシナリオづくりに際しては、現路線の減便とともに、バスに代わる生活の足を住民とともに確保することが考えられる。 ・このため、シナリオづくりおよび新たな生活の足(タクシーや自家用車などを利用した地域自主運行など)の運行を試行的に行うことが望まれる。 ・また、モデル路線以外の路線においても、デマンドなどの路線運行の効率化を図る取組みを水平展開する。 [希望する制度 上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(500万円)]</p> <p>・本格導入をめざし、運行負担者(バス事業者・珠洲市)および受益者(商業事業者)が主体となった協議会を発足し、負担割合、運用体制などを検討する。 [希望する制度 無し]</p> <p>・モニターツアーによって企画されたツアーを誘客に結びつけるため、NPO法人と連携しながら、首都圏に対する誘客活動を行い、珠洲市の入り込み客数増加につなげる活動(プロモーション活動)を展開する。 [希望する制度 上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(100万円)]</p> <p>・公共交通の維持のための様々な試みを通して、地方を元気にする取組みは、継続的に市民の意識共有を図る必要がある。そのため、市民フォーラムを継続的に実施し、市民の意識啓発とともに学習会としての位置づけへと昇華させるため、全国の公共交通先進地からの講師招へいなどを行う。 ・また、運行事業者に対しても、地域自主運行などを学ぶための講座を開講(先進地学習、講師招へいなど)するとともに、取組意欲のある地域に対して、中期的な実証運行実験を行う。 [希望する制度 上記について地方の元気再生事業の継続支援を希望(300万円)]</p>

過疎地域を公共交通でひとつにするプロジェクト(石川県珠洲市)－珠洲市地域公共交通活性化協議会－

◆主な実施取組の内容◆

取組① バス・ボランティア・サポートプログラム(B-VSP)試行実験	取組② 市民交流バスの運行実験	取組③ まちなかへのデマンドバス運行実験	取組④ バス利用促進キャンペーン	取組⑤ まちなかへのバス料金割引実験	取組⑥ ふるさと再発見バスの試行運行	取組⑦ バスを見直す市民フォーラム
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4つの団体と協議会が協定を締結 ・バス停の改修、除雪掃除活動、ベンチ設置などが行われた。 <p>[取組の結果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B-VSP団体が活動したバス停のバス待ち環境が向上した。 	<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3回(各1ヶ月間)にわたり、保育所児童の作品や「乗ってみたいバスの車両デザイン」作品の展示を、バス車両内で実施。 <p>[取組の結果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内6保育所からの参加が得られた。 ・デザイン募集に518作品集まった。 	<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市営バス小屋線の最終便に予約制を導入。 ・あわせて、料金低減システムを導入。 ・沿線住民と目標値共有を図った。 <p>[取組の結果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿線住民と目標値を共有できたことは今後、他地区に展開する上でのステップとなった。 	<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス利用促進キャッチフレーズを募集。132点の応募。 ・優秀作品を選考し、6点のシールとステッカーを作成・配布。 <p>[取組の結果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス関心度が高くなっており、1日あたりの平均利用者が増加している。(H19 平日353人→H20 平日418人) 	<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地商店街で千円以上買い物した方に、バス割引券を1枚配布。(1ヶ月間) ・割引券の利用可能期間を12月～1月に設定 <p>[取組の結果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/1～1/6までの速報値では、1日平均で145枚程度の利用があった。 	<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光ボランティア団体によるバス周遊ツアーを企画 ・11月、2月、3月(計3回)モニターツアーを実施 <p>[取組の結果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツアーの商品可能性へ向けた課題が確認できた。 	<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3/8市民フォーラムを開催予定。 <p>[取組の結果]</p>
 <p>民家倉庫を活用したバス待合所の設置(折戸地区住民団体)</p>	 <p>保育所児童の作品を展示したバス(市営バスうぐいす号)</p>	 <p>デマンド導入・料金低減についての住民意見交換会(柏原地区)</p>	 <p>バス利用促進キャッチフレーズ・ステッカー(キャッチフレーズは、中学生の作品)</p>	 <p>中心商店街協力店で配布されたバス料金割引券</p>	 <p>モニターツアーのバス車内で案内するボランティアガイド</p>	

◆取組実施による成果・今後の展開◆

- 取組①より→**住民の努力をバス路線の維持・向上へとつなげるシステムの定着化**→成果のあらわれた路線における交通サービス水準の向上実験(増便実験など)
- 取組②より→**市民交流バスの継続的運営**→バス車両のさらなる活用を図るための実験実施(車両内無人販売、バス車両イベントの実施など)
- 取組③より→**モデル路線のデマンド運行の定着と拡大**→モデル路線の利用促進活動と効率化の両輪を、沿線住民と協働で展開
- 取組⑤より→**商店街等とバス事業者・珠洲市の連携によるバス料金割引の本格導入**→協議会を設立し、負担割合や運用体制などを検討
- 取組⑥より→**着地型観光商品としての提供**→ボランティアガイド組織と協働で、首都圏に対する誘客活動を展開
- その他 →**市民学習会の開講**→市民生活の足の効率的運行(NPO法人による運行、地域自主運行など)を学ぶための講座を開講(先進地学習、講師招へいなど)